

京都バイバイ原発さようと集会

八〇〇名が参加しデモ

三月六日、京都・円山野外音楽堂で、原発の即時廃炉と再稼働反対を訴える「バイバイ原発3・6きようと」が開催され、約八〇〇人が参加した。主催は、集会実行委員会。集会では、福島原発告訴団団長の武藤類子さんが、「福島原発事故の責任を誰がとるのか」と題して講演

し、「廃炉作業に、一日四〇〇人の労働者を投入し、過酷な被曝労働の中で死亡者も二〇人ほど出ている。原発サイト内の「一、二号機が見えるところに見学台を作つて高校生を含む一般の人々に見学をさせている。こ

こでは、毎時一〇〇マイクロシーベルトもある」。こ

うして語った。

続いて四つの団体が発言

している」と、原発事故以降の

「原発事故から住民を守る自治体の対策がどんどん後退している。住民を守る法的責任を果たせという要

求を自治体に突きつけ実行

させしていく取り組みを強めよう」(日本科学者会議京都

したもの)にすぎないとし、九州電力の基準値振動の評価は妥当としたのだ。

さらに、判決は火山巨大噴火の可能性について、原子力規制庁の「基本的な考

え方について」は発生頻度が著しく小さい「リスクは無視できるものとして社会通

念上容認される水準である」と判断できる」とし、さらに「運用期間中に破局的噴火

が発生する可能性があること

とを具体的かつ合理的に指摘する専門的知見があると認められるに足りる証拠はない」として原子力規制委員会の判断は不合理でないと認定した。

これらは国や九州電力の主張を受け入れ、原発の危険性や住民の安全性を無視したものの、想定を上回る地震がおこれば、原発の放射性物質が大量に放出され

るような重大事故につながる。また巨大噴火の予測は困難というのが火山学者の意見だ。

しかし沖縄防衛局は、水

深七〇メートルの地盤改良工事といふこれまで前例が

ある。このように発電の原発は、使

は不可能となつて、建設は全

く中止し、計画そのものを撤回しなければならない。

今春期、玉城知事の不承認を支持する全国運動を開

こう!

しかし沖縄防衛局は、水

深七〇メートルの地盤改良工事といふこれまで前例が

ある。このように発電の原発は、使

は不可能で、埋め立て工事

は中止し、計画そのものを撤回しなければならない。

今春期、玉城知事の不承認を支持する全国運動を開

こう!

しかし沖縄防衛局は、水

</

